

気候情報

2006年2月の日本の天候

気温の変動大（全国）、
降水量が多く日照少ない（太平洋側）

2月の天気概況

気温の変動が大きく、低気圧や前線の影響で曇りや雨または雪の日が多かった。上旬は、低気圧が本州南岸を周期的に通過し、低気圧の通過後は上空に非常に強い寒気が流れ込んだ。このため、日本海側の地方を中心に大雪となる日があり、太平洋側の地方や伊豆諸島でも積雪となる等、気温の低い日が多かった。しかし、中旬以降は低気圧が日本の北を周期的に通過したため、南から暖かい空気が流れ込んで気温の高い日が多く、15日は記録的な高温となる所もあった。また、上旬は低気圧が本州南岸を通過し、中旬以降は日本の南海上に前線が停滞しやすかったため、太平洋側の地方を中心に曇りや雨の日が多かった。特に、低気圧が発達しながら通過した1日は東日本太平洋側で、26日は太平洋側で大雨となる所があった。

上旬：低気圧が本州南岸を周期的に通過し、低気圧の通過後は上空に非常に強い寒気が流れ込んで冬型の気圧配置が強まった。このため、日本海側の地方を中心に大雪となる日があり、太平洋側の地方や伊豆諸島でも積雪となる等、気温の低い日が多かった。1日は本州南岸を発達しながら通過した低気圧の影響で東日本太平洋側では大雨となる所があった。また、10日は秋田県でなだれによる被害や、交通障害があった秋田新幹線は運休となった。**旬平均気温**は、西日本で平年並のほかに低かった。**旬降水量**は、東日本日本海側で平年並、南西諸島で少ないほかに多かった。**旬日照時間**は、西日本太平洋側で平年並のほかに少なかった。

中旬：低気圧が北日本を周期的に通過したため、南から暖かい空気が流れ込んで気温の高い日が多く、15日は記録的な高温となる所もあった。また、後半は日本の南海上に前線が停滞しやすく、太平洋側の地方を中心に曇りや雨の日が多かった。**旬平均気温**は、全国で高かった。**旬降水量**は、北日本日本海側と東日本太平洋側で多く、東日本日本海側で少ないほかに平年並だった。**旬日照時間**は、北日本と西日本で少なく、東日本と南西諸島で平年並だった。

下旬：低気圧が日本の北を周期的に通過したため、南から暖かい空気が流れ込んで気温の高い日が多かった。また、日本の南海上には前線が停滞しやすく、高気圧に覆われて晴れる日もあったが、太平洋側の地方では曇りの日が多かった。なお、26～27日には低気圧が日本海と本州南岸を発達しながら通過したため、全国的に大荒れとなり、大雨や記録的な暴風となる所も

あった。また、26日には長野県でなだれが発生した。**旬平均気温**は、全国で高かった。**旬降水量**は、東日本日本海側で少なく、北・西日本日本海側で平年並のほかに多かった。**旬日照時間**は、東・西日本太平洋側で少なく、東日本日本海側で多かったほかに平年並だった。

2月の気候統計

平均気温：月平均気温は、北日本では平年並だったが、そのほかの地域では高かった。北海道の一部や、東・西日本の一部では平年を1℃以上上回ったところがあった。

降水量：月降水量は、東日本から西日本にかけての太平洋側を中心に多く、平年の200%以上となったところがあった。一方、東日本の日本海側では少なく、平年の60%未満となったところがあった。南西諸島では平年並だった。

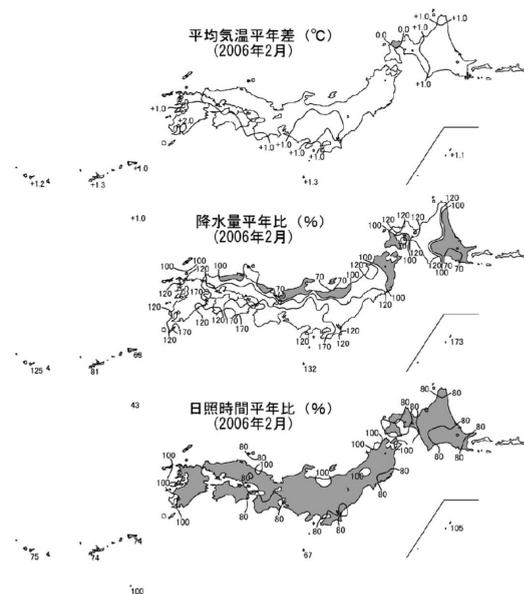
日照時間：月間日照時間は、東日本の日本海側と南西諸島では平年並だったが、そのほかに少なかった。特に、北日本から東日本にかけての太平洋側ではかなり少なかった。

降雪・積雪：降雪の深さの月合計は、山沿いで平年並だったほかに、全国的に少なかった。月最深積雪は北日本と東日本の山沿いで多かったほかに平年並ないしは少なかった。

2月の記録（1位更新のみ）

なし

2006年2月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。